

公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第110 2019年3月13日 発行

県民の健康に寄与できる優秀な作業療法士養成に向けて ～全作業療法士に求められること～

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川 哲朗 (金沢脳神経外科病院)

アダムスミスは「国の富は「優秀な国民がどれだけいるか」にかかっている」と語っている。国の生産性を上げるには、国民が仕事においてどれだけの技能や判断力を持っているか、優秀な国民の割合がどれだけ高いかにかかっていると説いている。また、「教育を受けていなければ単純な仕事しかできない」とし、「求められる仕事の内容は、時と共に変化する。十分な教育を受けていなければ、そういう仕事の変化に対応できない」としている。

国富論という大変古い書物ではあるが、作業療法に置き換えれば、作業療法が発展し県民の健康に寄与するためにはどれだけ優秀な作業療法士がいるかに掛かっており、それは単純な仕事ではなく、日々変化する周辺状況に対応出来る技能や判断力を身につけなければいけないということになるだろう。

目まぐるしく変化する周辺環境の中で、私たちがやる仕事は単純な仕事ではなく、優秀な作業療法士を多くするには「教育」が重要であるということ述べさせていただいた。

「作業療法教育」はどこで為されるものか。一義的には養成校ということになるかと思われる。昨年日本作業療法士協会の定義が改定された。地域包括ケアシステムに代表される昨今の医療介護福祉の現状、世界作業療法士連盟の定義など現代の周辺環境に即した内容のものに変わったと思っている。また、18年間据え置かれてきた理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則も見直された。しかし、養成校の教育が変わればそれで済むだろうか。養成校教育の中では臨床教育というものが大きな比重を占める。今、この臨床教育を含め大きく変わらねばいけない時であると自覚してい

る。ご承知の通り、臨床実習に関わる種々の問題提起がなされ解決に向け様々な事を変える必然性を示されている。実習の方法は従来の症例基盤型から臨床参加型実習へ、そして成人教育学を強く意識した教育実施へ変革する。

変革は実習方法だけではない。2020年入学以降の作業療法学生に対し臨床教育に関われる指導者は厚生労働省認定の指導者だけである。ケース指導や個々の評価の指導であっても、指導に関わるためには認定を受ける必要がある。この認定を受けるためには5年以上の臨床経験に加え厚生労働省認定講習会受講、教員等養成長期講習を受講、作業療法士協会主催中・上級者臨床実習指導者講習を受ける必要がある(2019年度からは厚生労働省認定講習会が追加される)。県内では30名(2019.1.1時点)の有資格者が居るが、県内養成校学生定員や先の、実習に関わる者がすべからく資格必要と言うことを考えると到底間に合う人数ではない。

そこで、県士会では県内養成校と一体となり厚生労働省認定講習会の開催が出来るよう取り組んで行く所存である。現県士会員の皆様は、2020年以降入学生が実習の場に接するときには臨床経験5年を超える事になる。この事を考えると、全士会員がそれまでに講習を受講し、指導者資格を得て頂きたいと強く訴える。

先に述べたとおり、「教育」は専門職の存在を豊かにする。逆を言えば、「教育」をないがしろにすれば作業療法は衰退し学生のみならず、専門職としての存在すら危うくする。全作業療法士が自らの職種を守るべく、強靱にすべくこの「教育」に関わって頂けるものと信じている。

石川県災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT石川)の設立について

災害対策委員会 担当理事 米田 貢 (金沢大学)

1. JRAT石川の設立

災害が身近に起こったとき、当会として、また私たち作業療法士の一人ひとりに何ができ、何を期待されるのだろうか。その一つに災害リハビリテーション支援がある。そしてこの度、「石川県災害リハビリテーション支援関連団体協議会(Ishikawa – Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team : JRAT石川)」が平成31年4月1日に設立されることになった。JRAT石川は、日本リハビリテーション医学会北陸地方会、石川県理学療法士会、石川県言語聴覚士会、石川県介護支援専門員協会、及び当会の5団体で組織される。国内においては、東日本大震災をきっかけに発足したJRATの地域JRATに位置づけられる(<https://www.jrat.jp/>)。

2. 設立記念研修会の報告

JRAT石川設立を記念し、平成31年2月3日(日)に石川県リハビリテーションセンターにおいて研修会が開催され、100名ほどの参加があった。特別講演は「熊本からのメッセージ」と題して、Kumamoto JRAT事務局長の三宮克彦先生(熊本機能病院)から地域JRATの組織化、熊本地震における活動、他地域での災害支援の実践についてご講演いただいた。次いで、シンポジウム「災害支援における専門職の役割」と題して、リハ医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護支援専門員がシンポジストに立ち、それぞれの実践報告を交えて各職種の役割について意見を述べた。リハビ

リテーション支援チームをどのように組織し、運用して行くかという課題の他に、実際に県内で発災時に他からの協力を受け入れる体制づくり、また他の関係団体との連携など多くの課題に取り組んでいく必要性が確認できた。

3. 今後のJRAT石川と当会の活動

JRAT石川の目的の一つは、県内の発災時に速やかにリハビリテーション支援を実施し、住民の自立生活の再建、復興を目指すことにある。また、他の都道府県の発災時にも可能な限りの支援である。私自身、災害医療を学ぶ機会があり、また昨年の岡山豪雨の際にはJRATのロジスティック(後方)支援に従事した。東日本大震災以降のさまざまな経験から整理された支援の考え方や手法を学ぶこと、コーディネーターの養成も急務であると認識している。

当会は、これらに対応できる研修会の開催、情報配信に対してJRAT石川を中心に組み込んでいくことになる。会員個々においては、災害医療、災害リハビリテーション支援を学ぶ中で、多数の職種の役割を理解し、いざというときに連携できることが期待される。このような平時からの準備は、ご自身・家族、ご近所・地域、所属先において、災害時の対応に役立つであろう。何よりも重要なことは常日頃から顔見知りであることであり、県士会活動を通じてそういう場を提供できれば幸いである。



JRAT石川研修会の様子。左はJRAT石川の影近会長。右は三宮先生のご講演のスライドより抜粋。

石川県作業療法士会編 作業療法(発達領域)パンフレット完成間近！

発達障害支援部 担当理事 **安本 大樹** (金沢こども医療福祉センター)

近年、特別支援教育や在宅医療ケアなど特別な支援を必要とする発達障害の子どもたちが急速に増えており、作業療法士は作業療法的視点を持って関わることで、これらの子ども達がより豊かな生活の営みを育む支援を数多く提供できる。パンフレットでは、これらを疾患(発達障害児、肢体不自由児・者、重症心身障害・医療的が必要な児)別に、各々支援カテゴリー(日常生活、学校生活、就労)でイラストを使って見やすく説明してある。

このパンフレットを活用して、作業療法士がどのような子ども達にどのように支援を行っているのかを、発達障害にかかわる職域の方々に理解してもらい、作業療法士の地域

等の活躍の場を広げていく事に貢献できればと考えている。

なお、イラストなど今後完成までに修正の可能性あることをご理解いただきたい。

発達障がい児 (自閉症スペクトラム障がい)	肢体不自由児・者	重症心身障がい児・者 医療的ケアを必要とする児・者
日常生活 - 感覚過敏への対応や困りごとの相談に対応します。 - 遊びを通して人との関わりや興味・意欲を育みます。 - 身体や手先の使い方の(不器用さ)への提案をします。 	- 身体の変形を予防するため、身体にあった座位保持椅子や車椅子を提案します。 - 遊びを通して心身の発達・成長を促します。 - 運動機能の発達を促す遊びや活動を提案します。 	- 安楽に過ごすため、身体に適した座位保持椅子や車椅子を提案し、外出の機会を増やします。 - 呼吸を静かに通わせる姿勢や環境を提案し、口腔内のケアを通して嚥下機能の発達を促します。 - 遊びを通して、手の動きや認知機能の発達を促します。 - 日常生活の介助量を減らすための工夫を提案します。 
学校生活 - 姿勢保持や手先の不器用さを補う福祉用具や具体的な動作を提案します。(鉛筆・箸・スプーンの持ち方/ハサミの使い方) - 発達しがちな教室環境(見える化)を提案します。 - 生活・学習場面での教える工夫を提案します。 	- 授業中に適した移動手段を提案します。 - 授業の中で使用する道具の使用方法や福祉用具を提案します。(スプーン鉛筆ハサミ、定規、コンパス、リコーダー) - 姿勢を整え、視力を育むことで認知機能の発達を促します。 	- 情緒的な感情表現の表出を促します。 - 身体の変形を予防のため、校での姿勢交換や姿勢保持について支援します。 - より安全に介助するための工夫を提案します。 
就労 - 自分の能力を仕事に活かせるよう、道具や福祉用具(スリッパやT機器)を活用します。 - 集中力・持久力・作業遂行能力を高める作業活動を提供します。 - ジョブコーチと連携して、働きやすい環境を整えます。 - 自動車運転に向けて、認知面・運動面に対する支援を行います。 		

運転に関する士会支援事業 ～先進的取り組み施設見学～

高間 達也 (恵寿総合病院)

日本作業療法士協会の運転と作業療法特設委員会は、平成30年度に士会支援事業として先進的取り組み施設の見学を企画した。

石川県作業療法士会は、新潟リハビリテーション病院の見学を行う機会を得て、平成30年12月3日(月)、県士会から4人が施設見学に参加することとなった。

新潟リハビリテーション病院では、1日で評価が可能なプログラムや、STと評価を分担するなどシステム化されていた。OTは特にシミュレーターを使用した、運転行動の評価が重点的に行われていた。また、他組織との連携を図るシステムも整備されており、自動車学校の選定についても、連携している37校の内対象者の特徴に合わせて行われていた。

新潟県警本部運転免許センターや水原自動

車学校では、医学的な意見については医師やOTから得る事が周知されており、日常から医師との連携も図られていた。また、実際の運転行動の際に出現する障害の影響については、各機関で評価できるシステムが整備されていた。

新潟県の様々な機関が自動車運転支援について連携を図るきっかけになったのは、医師会が先だって介入していた歴史がある。今日、高齢者や障害を持った方の自動車運転については世間の注目も高まっている。石川県作業療法士会では、運転と作業に係る委員会を立ち上げており、研修会の開催を行っている。今後も活動を継続しながら、対外的な活動も行っていきたいと考える。

東海北陸リーダー研修2018 in岐阜に参加して

西 悦子 (金沢大学附属病院)

平成30年12月1日(土)・2日(日)東海北陸リーダー養成研修が岐阜県作業療法士会主催で大垣徳州会病院にて開催された。石川県より参加した5名それぞれから所感を述べさせていただく。この研修会は東海北陸8県から33名が参加し、グループワークを中心に学んできた。今後の臨床や県士会活動に役立てていきたい。

リーダーとは

上野 玲子(石川県リハビリテーションセンター)
『リーダー』と聞いて、皆さんは何を考えるだろうか？今までの私は、自分にはそんな素質がない…と他人事として捉えていた。しかし今回の研修で、従来は自己主張が強く、人を動かす牽引・統率型がいわゆるリーダーであったが、多様化するニーズに応えることが必要な今の時代は、仲間の背中を押しサポートしながら仲間の力を引き出すような自己主張が控えめな奉仕型リーダーが求められていると知った。参加後、自己主張が控えめな私でも、このようなリーダーならなれるかも…と自分事として捉えることができた。

懇親会

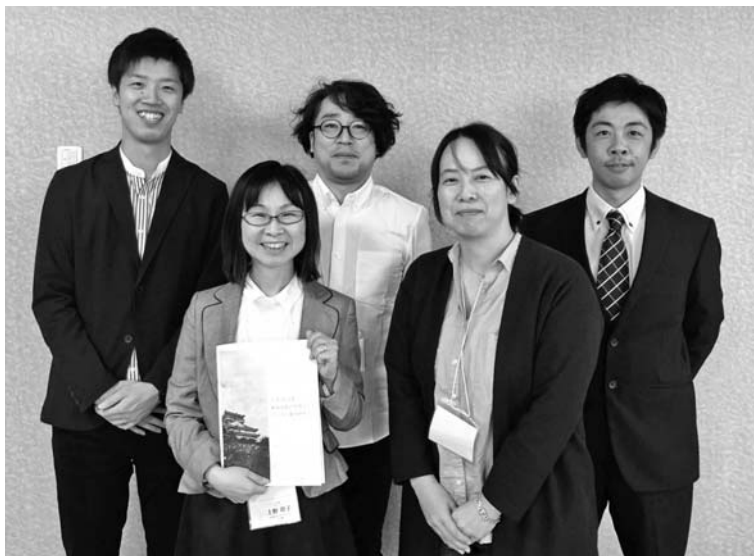
配島大二郎(公立能登総合病院)
情報交換は各々が知りうる県士会関連の事だけでなく、現場での困りごとや悩みから、県の名産品の事まで幅広く立場を超えた関わりが沢山あった。他県の会員だが、隣町出身者の方と一緒にいるなど素敵な出会いもあった。懇親会(2次会含む)は緊張して気が引ける方も多いと思われるが、かしこまらない雰囲気の中では研修会とは違った意見や表情をみせる事が多くある。研修やグループワークと同様に大変貴重な経験をさせていただいた。

ワンペーパー資料作成

萬 貴裕(医王ヶ丘病院)
グループワークを中心に様々な情報を一目でわかりやすく伝えるための簡潔な資料作成スキルを学んだ。一枚の資料にまとめるための構成力や文章の要約・表現力、情報を整理するための図解力やレイアウト力を講義とワークを通して学び、その後に総合演習を行い「一目で」「わかりやすい」ワンペーパー資料作りに励んだ。体験学習を中心に相互承認を通じた他県士会メンバーとのディスカッションはより理解が深まり、あっという間に3時間半が過ぎ充実した学習の機会となった。

今後に向けて

合歓垣洸一(介護老人保健施設陽翠の里)
2日間の研修を通して、後輩育成に悩んでいたりと、士会活動に関心の低い会員に対してどうしたらよいか模索していたりと、共通の悩みを持っている参加者は多いと感じた。近年は有資格者の増加に対して、認定資格や臨床実習指導の要件が変わるなど、作業療法の質や専門性が求められている。リーダーの役割を担うと同時に、若い世代の育成も急務であり、今回学んだことを働く場や県士会に還元できる次世代のリーダーとなり、実践していきたい。



(前列左から)上野さん、西さん

(後列左から) 合歓垣さん、配島さん、萬さん

各支部支援活動状況

能登支部

永井亜希子（恵寿総合病院）

介護保険での車いす選定が多い中、障害者への車椅子処方が弱いOTが多いと感じている。今年度の研修会は、当会副会長の寺田先生をお招きし、障害のある人に対する車いす処方について～OTの実践～というテーマで講義をして頂いた。障害者総合支援法、事例を通した車椅子選定の実際の講義の後、グループディスカッションで進められた。ディスカッションでは、事例を通して乗降時・移動時・座位活動時・環境など様々な観点で評価を行い、どのような車いすが良いか考えた結果を発表し、ホワイトボードに記載された(写真)。

話し合い、他者の意見を聞く中で、「なるほど」と思う事や、相反する条件の中でどう折り合いをつけるかなどの難しさを感じた。しかし、適した車椅子を考えるには対象者の動作・ADLを分析することが重要で、OTの強みを生かせるはずだとも実感できた。この研修を生かし、今後介護保険、身体障害どちらでも適した車椅子を考えていきたい。

翌日の第3回事例検討は5演題の発表があり参加者から多くの意見や、寺田先生から、症例報告のまとめ方や評価の視点などのアドバイスがあり充実した検討会となった。



加賀支部

西村 幸盛（片山津温泉・丘の上病院）

平成31年2月13日(水)に小松市民病院にて加賀支部第3回MTDLP事例検討会を開催した。参加者は24名で、COPDにより活動制限を来した対象者に対し、本人の「したい」という生活行為にアプローチした事例と大腿骨頸部骨折術後の退院支援時に自宅での生活を想定した訓練に難渋した事例の紹介があった。発表者から提示された課題に対し、それぞれのグループで活発な討議が行われた。休憩時間にはドーナツ片手に所属や年数の枠を超えた意見交換や情報交換が盛んに行われた。最後にはファシリテーターとしてお招きした県立高松病院の村井先生より「今はADLや

IADLが生活機能改善の指標となっており、これらに主として関わることでできる唯一の職種が作業療法士であり、ADLやIADLと真摯に向き合う必要がある!!」との熱いメッセージを頂くことが出来た。

真面目かつ緊張感のある討議ばかりではなく、リラックスした雰囲気の中での交流もあり、メリハリの効いた有意義な会となった。



金沢西支部

苗山 卓弘 (公立つるぎ病院)

平成31年1月26日(土)に金沢脳神経外科病院研修室にて研修会、第3回事例検討会を開催した。今回は当会の副会長である岡田千砂氏を講師に迎え『病院で、施設で、地域で、作業療法士に必要なレクリエーションの知識と技術』を題として講義して頂いた。今年度も金沢西支部ではお子様連れ可能な研修会を開催し、27名の参加のうち2組のお子様連れの参加があった。研修では参加したお子様など全員が参加できる実技があった。今まで話したことのない県土会員とも交流が持て笑顔が絶えない研修となった。

事例検討会では2事例の発表があり3名の認定作業療法士からのアドバイスをはじめ、認定作業療法士以外からも意見など発言があり活発に事例に対して考える場となった。来年度もいろいろな施設に協力

していただき事例検討会を開催したいと考えているので多数の参加を期待したい。



金沢東支部

堀江 翔 (金沢大学附属病院)

今年度第3回のMTDLP事例検討会を平成31年1月23日(水)松原病院にて、また一般の事例検討会を平成31年2月1日(金)金沢大学附属病院にて開催した。両会とも参加者は25名前後とやや寂しい数であったが、内容はとても濃密で参加者には有意義であったのではないと思われる。MTDLPでは前頭側頭型認知症様の症状を呈した事例で、ファシリテーターの村井より対応策や作業の環境・難易度設定の詳細なアド

バイスがあった。また、事例検討会では7事例と平日の夜開催としては多くの事例について検討を行った。今回のタイトル集を図で提示したが、多彩な症状に対する様々なアプローチが発表されており、一晩で様々な知見を得ることができた。こういった多様性は東支部の特色であり、また多様な質問に回答できる先輩OT達も集まっていると思われるので、他支部からの参加も大いに期待するところである。

- ・クライアントの思いを聴取し、目標を共有した結果、行動変容に至った症例
～意志質問紙(VQ)、認知症高齢者絵カード評価法(APCD)用いて～
- ・廃用症候群を呈した四肢麻痺患者に対する生活リハビリを取り入れた介入
～ADLの再獲得ができた1例～
- ・記憶障害を呈した症例へのメモリーノート・メモの活用を目指して
- ・中心性頸髄損傷により四肢麻痺を呈した症例に対する食事動作介助量軽減に向けたアプローチ
- ・認知症によるBPSDとContraversive Pushingがみられた症例に対しぬいぐるみを用いることで移乗に協力動作が得られるようになった介入
- ・多発脳梗塞による記憶力低下に対し日課チェック表を使用して日課の管理に繋がった一例
- ・右半側空間無視を呈した脳卒中患者の食事動作自立を目指して

羽咋市にて、地域包括ケアにおける リハビリテーションのシンポジウム開催

金田 和弘(介護老人保健施設 白鳥苑)

平成31年1月27日(日)、県作業療法士会・県理学療法士会・県言語聴覚士会および県リハビリテーションセンターによる、標記のシンポジウム(「羽咋市の地域包括ケアシステムを知ろう!」～地域共生社会において病院・施設・地域で、リハビリ専門職ができること～)が開催された。参加者は82名で、内訳は、リハビリテーション専門職(以下、リハ専門職)が過半数を占め、他に、行政関係者、保健師、看護師、介護支援専門員などであった。シンポジストは、羽咋市・地域包括ケア推進室の片山みゆき室長、公立羽咋病院の新屋陽一副院长、看護小規模多機能・あわらんちの小堀慶子管理者(看護師)、特別養護老人ホーム・眉丈園の池島大智PT、羽咋病院の松原彩世ST、

および筆者(OT)で、各立場より地域包括ケアに関する取り組み・リハ専門職への期待・実践報告など紹介された。終盤、県理学療法士会の北谷正浩副会長が座長を務め、シンポジスト・参加者で意見交換を行った。

全体を通し感じたことは、リハ専門職への期待の高さと連携の大切さである。介護予防の段階から看取り期に至るまで、地域の実情に応じ、「何ができるか」や「何をすべきか」などの、リハ専門職どうしの共通認識、地域へのPRも必要かと考える。今年度、「羽咋市PT・OT・ST連絡会」が発足した。今回のシンポジウムで、当連絡会の意義を、さらに感じた。私も微力ながら、当連絡会を通し、地域貢献する努力を重ねていきたい。

2020年度からの新生涯教育システムについて

教育部 担当理事 桂 靖典(木島病院)

皆さまは2018年度から認定作業療法士取得要件に変更があったことはご存知だろうか? 2017年度までは認定作業療法士の取得要件は3つであったが、2018年度より新たに3つの要件が加えられた。その他にも生涯教育制度について変更があり、詳細は2018年2月発行の「日本作業療法士協会誌」に記載されているので、一度ご確認を頂きたい。そして今回、2020年度より紙媒体での生涯教育手帳が廃止され全て電子化されることとなり、それに伴い各自でパソコンやスマートフォンを使用し、2019年度中に手帳の移行申請を行う必要がある。手帳移行申請を行う為には、申請時までに取り得した基礎ポイント(各研修会・学会参加、臨床実習指導者等のポイント)を全て受講記録へ

貼付、押印する必要がある。手帳移行後は未処理のポイント等が見つかった場合でも追加申請することが出来ず、また手帳移行申請も一度きりしか出来ないことにもご注意を頂きたい。

教育部では800余名の会員皆さまの新生涯教育制度への理解向上と手帳移行申請をサポートしたく、3月2日(土)金沢地区、5日(火)加賀地区、12日(火)能登地区にて同じ内容で研修会を開催し、診療報酬・介護報酬改定研修会が開催される3月16日(土)の午前中に金沢市ものづくり会館にて生涯教育手帳一斉整理作業を開催する。まだ時間に余裕があるが、2019年度末には駆け込み需要が予想される。余裕を持って2019年度内にポイントの押印作業が出来るよう、是非ともご協力を頂きたい。

◆◆◆第5回 理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：平成31年1月16日(水) 19時～21時30分 西泉事務所
2. 出席：東川、寺田、岡田、麦井、安本、大西、渡邊、明福、高多、川上、米田、白山、中森、桂(理事14名) 堀江、永井(支部長2名) 山本恭、山下(書記2名)

3. 議事 第1号議案 各部・委員会・各支部事業経過報告

【学術部】平成31年度第28回石川県作業療法学会運営の進捗状況について説明。

【教育部】平成31年度施行の新生涯教育システムについて石川県では3月に金沢、加賀、能登地区で研修会を開催しシステム移行を会員に周知する。生涯教育制度基礎ポイントの対象学会・研修会などについて石川県における現状を報告。

【発達障害支援部】発達障害支援に関するパンフレットの作成進捗状況についての報告。

【MTDLP推進委員会】石川、富山、福井3県合同研修会を次年度も開催する旨の報告。

【認知症対応委員会】平成31年度金沢市認知機能向上教室について報告。

【運転と作業療法に係る委員会】第2回研修会(3月3日開催予定)の内容について報告。

【災害対策委員会】石川県におけるJRAT発足について経過報告。

【PT・OT・ST連絡会】『地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成事業』について進捗状況を報告。

【企画部】第33回リハビリテーション風船バレーボール大会の会場を会場の都合によりメインアリーナからサブアリーナに変更。

【事業部】県士会所有のパネルの新調について上程あり、パネル内紙面のみ新調することで決定。 **承認**

【広報部】県士会ニュース110号と広報誌COTOT第3号の内容についての検討。

【財務部】他団体会議への出席等会長服務に対する日当費支給について平成31年度から予算に組み込むことを決定。 **承認**

【執行部】臨床実習指導システムの変更について作業療法士有資格者が臨床実習指導資格を取得することの必要性和、今後の実習指導者講習会開催方法を説明、講習会開催のための対応として特設委員会を設置することを決定。 **承認**

【事務局】平成31年度東海北陸リーダー研修会の運営進捗状況を説明、会場については再度検討。

平成31年度役員選挙についての連絡。

第2号議案 平成31年度予算について

『石川県高度・専門人材養成支援事業』の申請事業について次回理事連絡会で再度検討。

インフォメーション

平成31年度 会費納入についてのお知らせ

- ・ **継続** 石川県作業療法士会年会費：8,000円
 - ・ **新規** 4月以降に県士会へ新規入会：13,000円（入会費5,000円＋年会費8,000円）
- 【納入期間】平成31年4月1日～平成31年4月末日（期間厳守でお願いいたします）

【納入先】

- 北國銀行 野田支店 普通 260902
公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川哲朗
- 郵便振替 00720-7-22369 公益社団法人 石川県作業療法士会
ネットバンキングの場合：ゆうちょ銀行 当座預金 支店079 口座番号0022369

職場変更・自宅住所変更がある場合は届出もお忘れなく！！

県士会ホームページ（<http://www.ishikawa-ot.com>）より
『会員の皆様へ』（スマホの場合は右上のメニュー）→『入会・異動・退会手続き方法』へ

お問い合わせ先 (公社) 石川県作業療法士会 事務局
jimu-n@ishikawa-ot.com FAX：076-259-0681

平成31年5月の任期満了に伴う、役員候補者選挙を行います。
それに際し、理事(15名以上18名以内)・監事(2名)の立候補を受け付けます。立候補受付期間は、平成31年3月18日～3月31日です。理事選挙に立候補される方は、所定の届出用紙および選挙公報に掲載する意見等を、期間内に選挙管理委員会(石川県作業療法士会西泉事務局)まで届出をお願いします。

詳細については、選挙公示または県士会Webをご確認下さい。
選挙管理委員会

平成31年度 公益社団法人 石川県作業療法士協会 総会 ～表彰式典・新人歓迎会～

日程：5月18日(土)
場所：KKRホテル金沢
〒920-0912 石川県金沢市大手町2-32



KINJO UNIVERSITY

社会福祉学部
社会福祉学科
子ども福祉学科

医療健康学部
理学療法学科
作業療法学科

看護学部
看護学科

大学院
総合リハビリテーション研究科
総合リハビリテーション研究科（修士課程）

金城大学 医療健康学部 理学療法学科/作業療法学科
全国でもトップクラスの国家試験合格率と100%の就職率！
幅広い知識と実践力を持つ医療・福祉のリーダーを養成し、地域の健康を支えています。

金城大学 入試広報部 金城大学ホームページはこちら▶▶▶

☎ 0120-276-150 E-mail: nyushi@kinjo.ac.jp
TEL: 076-276-1775(本館) FAX: 076-275-4316

〔金沢キャンパス〕〒924-8511 石川県白山市笠間町120番地 〔松任キャンパス〕〒924-0865 石川県白山市金丸1丁目250番地 〔立花キャンパス〕〒924-0865 石川県白山市立花町1丁目250番地

パーキンソン病専門のリハビリ施設

作業療法士募集

専門性をもったリハビリ施設で
一人ひとりとちゃんと向き合うから
利用者さんと一緒にやりがいを感じる！



勤務地	資格	年収	月給	年間休日
● リライフ小坂 石川県金沢市小坂町北123-1	作業療法士	450万円 (月給28万+賞与104万円)	280,000円	110日
● リライフ白山 石川県白山市北安田西 2丁目17番地				

リライフの働き方を公開中!WEBをチェック!
<https://sunwels.jp/recruit-relife/ishikawa/>
より詳しく知りたい方は
個別見学会・個別スマホ説明会開催中!

☎ 0120-905-166 受付時間 10:00～19:00



賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
学校法人阿弥陀寺教育学園
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生会えんやま健康クリニック
医療法人社団千木福久会
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団同朋会
医療法人社団中田内科病院
医療法人社団洋和会
医療法人社団輪生会

医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
公益社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団博洋会
医療法人社団持木会柳田温泉病院
医療法人社団博友会
医療法人社団光仁会
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
株式会社半田
株式会社ヤマシタコーポレーション金沢営業所
セントラルメディカル株式会社
三星自動車販売株式会社
株式会社メディベック
株式会社サンウェルズ

D会員

医療法人社団あいずみクリニック
有限会社さわやか金沢
東洋羽毛北信越販売株式会社

会員動向

石川県作業療法士会会員 804名(平成31年2月現在)
認定作業療法士 29名(平成31年2月現在)
専門作業療法士 福祉用具2名、高次脳機能障害1名、認知症1名(平成31年2月現在)



編集後記

欧州のある村で村長が引退することになった。そこで村人は話し合い、高級であった白ワインを皆で少しずつ持ち寄り、空の樽をいっぱいにして贈ることにした。

さて、村長が贈られた樽から白ワインを飲もうとすると、驚いたことに中身はただの水だった。

「一人くらい水を入れても変わらないだろう」と皆が考えたためである。

今、臨床教育は大きな転換期を迎えている。

実習指導者資格においても「誰かが取得すれば良い」と考えたならば、どうなるであろう。

ワインを水にしてしまわないよう、全会員が一丸となって取り組まねばならない課題である。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：米田貢、明福真理子、白山武志、酒野直樹、横川菜美、杉浦有子、藤田隆司、川口朋子、

寺井利夫、太田哲生、岩田望、網谷郁美、西谷早紀、越仲共子、山梨珠美、南朱音、上野玲子

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：東川哲朗 印刷：ヨシダ印刷株式会社